

日本緩和医療学会

第8回 関東・甲信越支部学術大会

教えて！あなたの街の緩和ケア

プログラム

開催日

2026年10月4日（日）

会 場

Gメッセ群馬

（〒370-0044 群馬県高崎市岩押町12番24号）

大会長

田中 俊行

（高崎総合医療センター 疼痛緩和内科）

副大会長

間島 竹彦

（渋川医療センター 精神腫瘍科）

ごあいさつ

日本緩和医療学会 第8回 関東・甲信越支部学術大会

大会長 田中俊行

(独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター 疼痛緩和内科 部長)



皆さんこんにちは。このたび、2026年10月4日（日）に、日本緩和医療学会 第8回関東・甲信越支部学術大会を、Gメッセ群馬（群馬県高崎市岩押町、JR高崎駅から徒歩15分）にて開催させていただくこととなりました。大会長を務めさせていただきます高崎総合医療センター疼痛緩和内科の田中俊行です。現在、皆さんにとって充実した学会となるようスタッフ一同、誠心誠意準備を進めています。

2026年度で日本緩和医療学会学術大会は第31回を迎えます。一方、最初は手探りの状態ではじまったこの関東・甲信越支部学術大会は第8回目を迎えることになります。両学会とも毎年開催していますが、改めて、この支部学術大会はどのような位置づけなのか考えてみましょう。日本緩和医療学会では、緩和ケアとは、「病気に伴う心と体の痛みを和らげること」と表現しています。簡単なようですが、奥が深く、時に我々医療者・介護者もその対応に困惑します。緩和ケアのみならず医療・介護は、様々な職種の人たちが患者さん・ご家族にかかわることで成り立っています。その人たちが気軽に参加でき、気軽に話し合い、気軽に共有でき、結果として、いままで以上に緩和ケアの環が広がる場となるのがこの地方会と考えています。

ところで、皆さんの街ではどのような緩和ケアを提供していますか。日頃、皆さん医療者・介護者をはじめ、患者さん・ご家族にも、緩和ケアが少しずつ浸透してきていると感じています。そこで、今回の学術大会のテーマを「教えて！あなたの街の緩和ケア」としました。私が日頃考えている、「多職種連携（チーム医療）を大切に」につながるテーマと考えています。ひとくちに「緩和ケア」といっても、その地域、その土地により様々な形と特徴があると思います。大都市で行う緩和ケア、中小地方都市で行う緩和ケア、高齢化が進む過疎地域での緩和ケア。大きな病院で行う緩和ケア、小さな病院で行う緩和ケア、在宅で行う緩和ケア。充実した人員と施設がある中で行われる緩和ケア、人も揃わず、道具も揃わない中で工夫を凝らして行う緩和ケア。各地域で、様々な規模の病院や在宅診療所で、皆さんがどんな工夫をされているのか、どんなご苦労があるのか。皆さんで話し合い、情報共有し、明日からの診療に活かせればと思います。そんな思いを込め、このようなテーマを考えました。

本学会は、できるだけ多くの方々が参加できるよう、また、参加される方が少しでも群馬の魅力に触れていただけるよう、日曜日開催としました。そして、♪関東と信越つなぐ高崎市～♪（上毛かるた）と謳われるように、開催場所を、上越・長野・北陸新幹線と交通の便のいい高崎駅から近い「Gメッセ群馬」としました。群馬県は栃木県、茨城県と並んで北関東とも呼ばれ自然豊かなところです。♪裾野は長し赤城山～♪

（上毛かるた）、ぜひ新幹線から見える赤城山の裾野をご覧ください。また、前泊して、泉質のいい温泉で日ごろの疲れを癒してください。10月上旬の開催ですが、おそらく群馬は暑いです。ぜひ、普段着でリラックスした状態でご参加ください。群馬の地で皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

開催概要

名称

日本緩和医療学会 第8回 関東・甲信越支部学術大会

テーマ

教えて！あなたの街の緩和ケア

開催日

2026年10月4日（日）

会 場

Gメッセ群馬（〒370-0044 群馬県高崎市岩押町12番24号）

大会長

田中 俊行（高崎総合医療センター 疼痛緩和内科）

副大会長

間島 竹彦（渋川医療センター 精神腫瘍科）

実行委員（順不同）

儀賀 理暁、坂井 さゆり、坂下 美彦、徳原 真、長岡 広香、中辻 香邦子、前澤 美代子
間宮 敬子、山口 重樹、笹本 肇、高橋 有我、塩野 昭彦、廣野 正法、山田 真紀子
清原 文、反町 利恵、吉田 久美子、石井 あかね、小池 由美

後援（順不同）

群馬緩和医療研究会、公益社団法人 群馬県医師会、公益社団法人 群馬県看護協会、
公益社団法人 群馬県薬剤師会、一般社団法人 群馬県病院薬剤師会、
公益社団法人 群馬県栄養士会、公益社団法人 群馬県歯科医師会、
一般社団法人 群馬県理学療法士会、一般社団法人 群馬県作業療法士会、
一般社団法人 群馬県言語聴覚士会、社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会、
一般社団法人 群馬県社会福祉士会、一般社団法人 群馬県介護支援専門員協会、
群馬県公認心理師協会

東京 (約60分)

海老名JCT (約90分)

宇都宮 (約55分)

長野 (約90分)

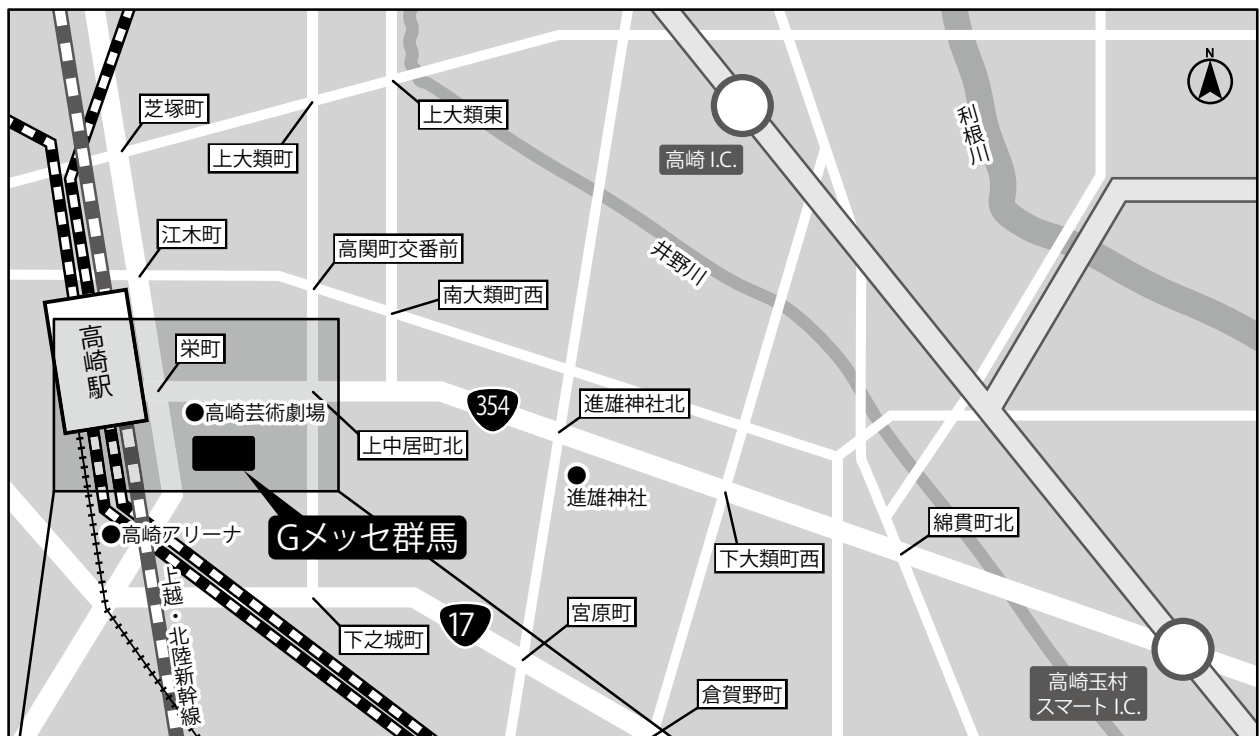
新潟 (約150分)

高崎・玉村スマートI.C.

(約15分)

Gメッセ群馬

自家用車等でお越しの方は、Gメッセ群馬の有料駐車場をご利用ください。駐車場から、Gメッセ群馬までは3階連絡通路をご利用ください。
(立体駐車場3階と、Gメッセ群馬2階が連絡通路でつながっています。)



「Gメッセ群馬入口」交差点からGメッセ群馬へお越しください。

EV充電スポット 4台（立体駐車場1F）

ご参加の皆様へ

当日参加受付

受付時間	2026 年 10 月 4 日(日) 8:45～17:00
受付場所	G メッセ群馬 2 階 ホワイエ

学会当日の参加証[ネームカード]について

■事前参加登録済みの方

9 月 25 日～9 月 30 日の間に、参加証[ネームカード]及び領収書をメール添付（PDF 形式）にてお送りいたします。

学会参加当日は参加証[ネームカード]を印刷して会場にお持ちください。

ネームホルダーは会場にご用意しています。会場内では必ず参加証[ネームカード]を着用ください。

*参加証[ネームカード]を着用いただければ、当日受付は不要です。 *事前の郵送はございません。

■当日参加登録の方

原則として、会場に用意します QR コードからオンライン参加登録を行ってください。

カード決済が完了した画面を確認させていただき、参加証[ネームカード]をお渡ししますので、ご自身で記名をお願いいたします。

ネームホルダーは会場にご用意しています。会場内では必ず参加証[ネームカード]を着用ください。

*領収書は後日メール添付にてお送りいたします。

抄録集について

■ご参加の皆様へ

参加証[ネームカード]に記載されている二次元バーコードまたは、メールでご案内する URL より閲覧ください。

■抄録集（印刷冊子）をご購入の方

9 月 25 日～9 月 30 日の間に、領収書と抄録集引換証をメール添付（PDF 形式）にてお送りいたします。

学会参加当日は引換証を印刷して会場にお持ちください、引換にて冊子をお渡しいたします。

ランチョンセミナー・スイーツセミナーについて

ランチョンセミナーおよびスイーツセミナーは、当日配布の整理券制となります。

配 布 時 間	2026 年 10 月 4 日(日) 8:45～各セミナー開始 20 分前まで。 ※定員になり次第、配布終了となります。
配 布 場 所	G メッセ群馬 2 階 ホワイエ 受付付近

※セミナー開始時間を過ぎた時点で、整理券は無効となります。

企業展示について

会期中、G メッセ群馬 2 階 ホワイエに設置いたします。

スタンプラリーを開催します。展示ブースを回ると、スタンプをもらえます。

スタンプを 5 個集めると記念品を贈呈いたします。是非ご参加ください。

*スタンプラリーカードは、参加証[ネームカード]と一緒に印刷できます。

クロークについて

受 付 時 間	2026 年 10 月 4 日(日) 8:45～18:00
受 付 場 所	G メッセ群馬 2 階 ホワイエ

クールビズ・ウォームビズ

本会では、クールビズ・ウォームビズを実施いたします。

上着・ネクタイを着用せず、襟のあるポロシャツ等など、快適に過ごせるスタイル（軽装）でご参加ください。

写真撮影・録音および携帯電話の使用について

会場内での写真・ビデオ撮影および録音は固くお断りいたします。携帯電話をお持ちの方は電源を切るか、マナーモードに設定してください。

オンデマンド配信について

本会は、現地のみの開催です。

オンデマンド配信はありません。

個人情報の取り扱いについて

お預かりする個人情報は日本緩和医療学会 第 8 回 関東・甲信越支部学術大会の運営（参加登録など）に関連する業務遂行の目的のみに利用いたします。

単位について

日本緩和医療学会第8回関東・甲信越支部学術大会では、下記の単位を取得できます。

日本緩和医療学会 専門医および認定登録医更新

日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師 3.5 単位

* 日本緩和医療学会第8回関東・甲信越支部学術大会（集合研修：3.5 単位）

* 単位をご希望の方は、以下の手順を必ずご確認ください。

* 今回の単位付与は現地参加の方のみとなります。

▶手順1（事前準備）

【対象者】日本病院薬剤師会 会員の方

① 日本病院薬剤師会の会員マイページにて薬剤師免許登録番号をご確認ください。

☆日本病院薬剤師会の会員マイページ

[URL](https://www.jshp.or.jp/cloud-member/index.html) <https://www.jshp.or.jp/cloud-member/index.html>

⇒薬剤師免許登録番号が入力されていない、あるいは、誤った番号が登録されている場合は「編集」で修正・保存し、ログアウトする。

② 研修管理システム（HOPESS）にログインし、マイページへ

上記①で確認した薬剤師免許登録番号が正しく反映されているかをご確認ください。

☆研修管理システム（HOPESS）

[URL](https://www.jshp.or.jp/hopess/index.html) <https://www.jshp.or.jp/hopess/index.html>

【対象者】日本病院薬剤師会 非会員の方

単位申請を希望される方は、日本病院薬剤師会の会員管理システムより非会員としてアカウントをご登録いただく必要がございます。

下記 URL よりお手続きをお願いいたします。

☆日本病院薬剤師会の会員管理システム：新規登録ページ

[URL](https://www.jshp.or.jp/cloud-member/index.html) <https://www.jshp.or.jp/cloud-member/index.html>

【注意】

*アカウントの登録内容の確認については、各自でご対応ください。

登録内容に誤りがありデータを照合できない場合は、条件（当日の参加、受講者管理の回答）を満たしていても単位は付与されませんので、ご注意ください。

※薬剤師免許登録番号等に関する問い合わせは、日本病院薬剤師会<bynintei★jshp.or.jp>へ
直接お問い合わせをお願いいたします。※コピーの際は★を@に変えてご利用ください。

*単位付与には受講確認が必要になります。

次の条件を全て満たした場合にのみ、単位が承認されます。

- ・受講履歴が確認できること。(⇒手順 2)
- ・支部学術大会にて掲示される 2 つのキーワードに回答し、正解すること。(⇒手順 3)

▶手順 2 (大会当日：開催前)

【対象者】 日本病院薬剤師会 会員及び非会員の方

受講確認のため、支部学術大会の開始前に、出席登録 URL より研修管理システム(HOPESS)へログインしてください。

☆出席登録 URL (研修管理システム)

「日本緩和医療学会第8回関東・甲信越支部学術大会」

URL <https://training.jshp-hopess.jp/login>

※出席登録 URL へログインいただくことで、ログイン履歴が残ります。

▶手順3 (大会当日：終了後)

【対象者】 日本病院薬剤師会 会員及び非会員の方

支部学術大会当日は、受講確認のために会場内にキーワードを2つ掲示します。

キーワードの写真撮影は禁止しておりますので、お手持ちのメモ等にお控えください。

支部学術大会終了後、またはキーワードを確認した後、出席登録 URL より研修管理システム (HOPESS) へログインし、キーワードの回答をお願いいたします。

キーワード掲示時間 キーワード① 9:00～13:00

キーワード② 14:00～18:00

キーワード掲示場所 総合受付付近・ポスター会場前

☆出席登録 URL（研修管理システム）

「日本緩和医療学会第 8 回関東・甲信越支部学術大会」

URL <https://training.jshp-hopess.jp/login>

＊回答期日

【2026 年 10 月 5 日（月） 23 時 59 分まで】

期日を過ぎた場合は、単位の発行は受け付けられませんのでご注意ください。

＊単位の発行については、研修実施機関（日本緩和医療学会）にて受講状況を確認し、条件を満たした方へのみ承認作業を行います。承認作業は支部学術大会終了後、2 週間程度を予定しております。承認作業が完了しましたら、研修管理システム（HOPESS）マイページの受講履歴に取得領域と単位が表示されます。

＊単位を申請された方は、各自研修管理システム（HOPESS）にログインし、マイページのご確認をお願いいたします。なお、承認作業にお時間がかかる場合もございますので、予めご了承ください。

日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師 4 単位

単位取得を希望される方は、総合受付にて単位申請用紙を配布しています。

必要事項を記入の上、総合受付にご提出ください。

申請には日本緩和医療薬学会の会員番号が必要になります。

会員番号に誤りがあると申請できませんので予めご確認ください。

日本医師会 生涯教育制度

申請は参加者ご自身で行ってください。

詳細については日本医師会生涯教育ポータルサイトをご確認ください。

URL https://www.med.or.jp/cme/about/bunkakai_shinkoku?query=doctor

発表者・座長の方へ

発表者の方へ

(1) 利益相反の開示について

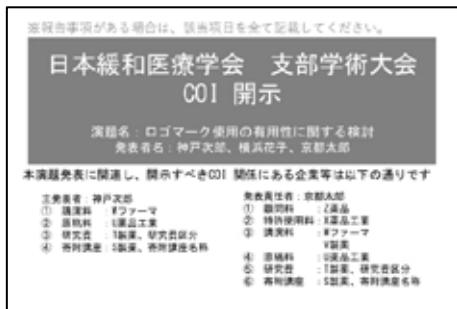
発表者は、自身の過去1年間における発表内容に関連する利益相反の有無を開示していただきます。
発表データの表紙の次にスライド等でご提示ください。

詳細は、支部学術大会 2026 年度演題募集要項ページ内の「利益相反の開示」をご確認ください。

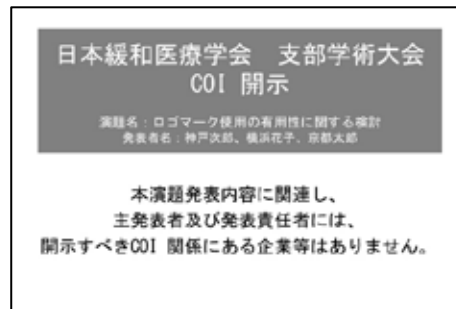
URL https://www.jspm.ne.jp/meetings/branch_application_requirements.html

COI スライド :

開示事項あり



開示事項なし



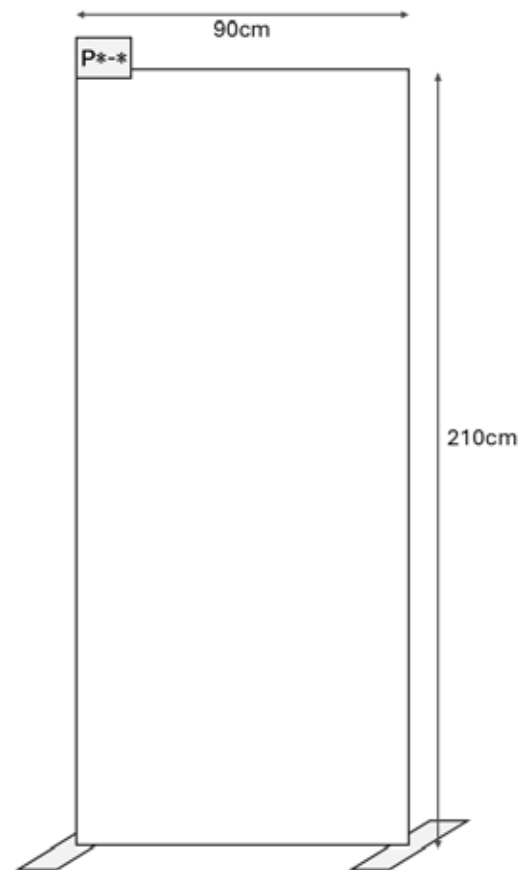
(2) 特別講演・シンポジウム・パネルディスカッション・座談会・事例検討・教育講演・TIPS（指定演題）の発表データについて

- 発表データを作成し、下記指定のフォルダ（Dropbox）へ事前にアップロードをお願いします。
＜アップロード期限：9月30日（水）＞
なお、ファイル名は「セッション名__氏名.pptx」としてください。
URL <https://www.dropbox.com/request/sxkjakniibcpn9dqvg98>
- ご自身の発表の30分前までに、会場2階ホワイエの「PC受付」にて発表データのご確認をお願いします。＜PC受付時間：10月4日（日）8:45～17:00＞
 - 当日発表データの差し替え修正がある場合には、USBメモリにてご持参ください。
 - 保存するメディアには発表に必要なデータのみの保存とし、他のデータは入れないでください。
 - 持ち込まれるメディアは、必ず各自にて最新のデータによるウイルスチェックを行なってご持参ください。
- 投影スクリーンは1面で、発表にはWindows PCとプロジェクター1台を用意します。
会場で用意しているプレゼンテーションソフトはMicrosoft Office Standard 2024となります。
なお、発表者ツールをご利用いただけます。
- 発表データに使用するフォントは、Windows11に標準搭載されているものを推奨いたします。
【日本語】MS ゴシック・MSP ゴシック・MS 明朝・MSP 明朝・游明朝・メイリオ
【英語】Times New Roman・Arial・Arial Black・Arial Narrow・Century・Century Gothic・Courier New・Georgia

- PowerPoint 上の動画は使用可能ですが、動画データは Windows11 で標準状態の Windows Media Player で再生できるファイル形式にて作成し、PowerPoint にリンクしてください。
 - 事前に発表データを作成した PC とは別の PC で、動作確認をお願いいたします。
 - 動画データは PowerPoint データとともに使用する動画ファイルを同一フォルダーに整理し、保存のうえご持参ください。
 - 標準的な動画コーデック以外の動画ファイルの場合、再生に不具合を生じる場合がございます。
 - PowerPoint で動画ファイルを埋め込み処理された場合は、別途その動画ファイルもご持参いただくことをお勧めいたします。
 - 発表時間等については座長から連絡がありますので、事前に打ち合わせをしてください。
- 発表は、発表者ご自身で演台上に設置されている PC を操作してください。
演台上には、ノートパソコン (Windows11)、マウス、レーザーポインターが用意されています。
- 次発表者の方は、前の発表者が登壇後すぐに次発表者席にお着きください。

(3) ポスター発表について (一般演題)

- 一般演題はすべてポスター発表となります。
＜発表時間：10月4日(日)13:25～14:10＞
- 発表時間は5分、討論時間は2分です。座長の進行により発表をお願いします。
- 発表者はポスター貼付用のパネルの前に置かれているリボンを着用の上、発表時間の10分前までにご自身の発表パネルの前で待機してください。
- ポスターはご自身で貼り付けをお願いします。
- 演題ごとにポスターパネルとピンを事務局側で用意します。
- パネルサイズは全体で縦 210cm×横 90cm です。パネル左上部に演題番号（はがきサイズ）をあらかじめ掲示しておきます。演題名・所属・氏名は発表者ご自身でご用意ください。
- 貼付および撤去は以下の時間内に行ってください。
時間を過ぎても取り外されないポスターについては、受付にてポスターをお預かりします。閉会後は事務局にて処分いたしますのでご了承ください。
＜貼付・撤去時間＞
貼付：10月4日(日) 9:00～10:00
撤去：10月4日(日) 15:00～16:30



座長の方へ

(1) 特別講演・シンポジウムなど指定演題の座長

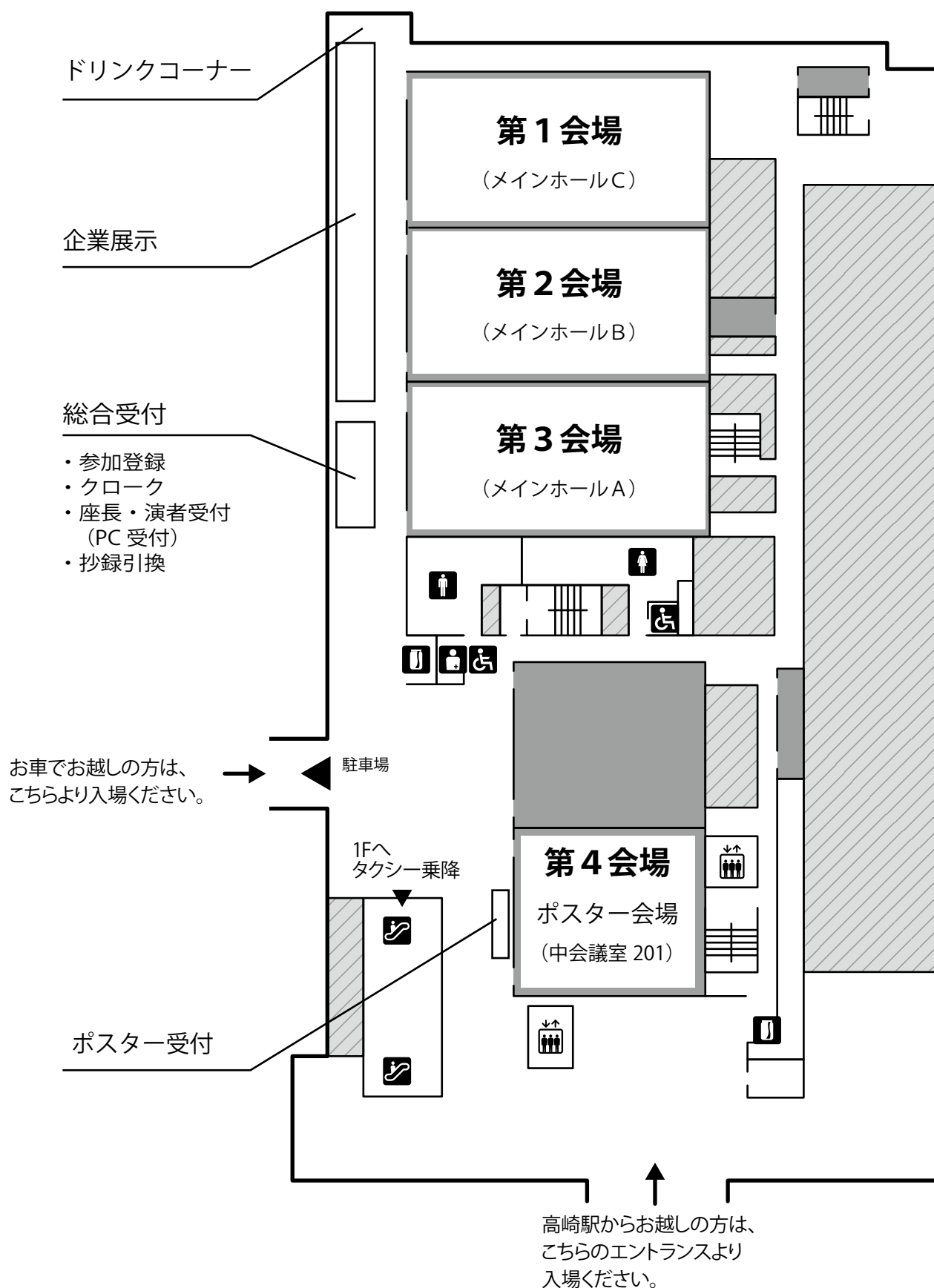
- セッション開始の 10 分前までに、会場内の次座長席にお着きください。
- 進行は座長に一任いたしますが、セッションごとの時間厳守にご協力ください。
- 事前に座長・演者と発表時間・進行方法など、打ち合わせをしてください

(2) 一般演題の座長

- 当日はセッション開始 30 分前までに、ポスター会場前の座長受付にてリボン、ストップウォッチ、差し棒をお受け取りください。
- 進行は座長に一任いたしますが、セッションごとの時間厳守にご協力ください。
- 質疑応答の記録は取りません。

会場案内

2F



	第1会場 (メインホールC)	第2会場 (メインホールB)	第3会場 (メインホールA)	第4会場 (中会議室201)	ホワイエ
9:00	オープニング四重奏 9:15～9:25 開会式 大会長挨拶		座長:①②③ 吉田 久美子 ④⑤ 森下 亜希子	ポスター会場	展示ブース/ (予備)ポス ター会場
10:00	9:30～10:30 特別講演① 『群馬県の緩和ケアはどのように 興ってきたのか、その歴史と今後の 展望について』 座長:田中 俊行 演者:斎藤 龍生	9:30～10:30 特別講演① サテライト中継	9:30～9:45 TIPS① 口渴 野村 亜矢 9:50～10:05 TIPS② 褥瘡 岡部 美保 10:10～10:25 TIPS③ 浮腫 中辻 香邦子		
11:00	10:40～12:00 シンポジウム① 『うちは〇〇がない! それぞれ の工夫を教えて』 座長:間島 竹彦、笹本 肇 演者:小木曽 綾子、田上 恵太、 森田 廣樹、中村 陽一	10:40～12:00 パネルディスカッション 『送る側と受ける側、病院と施設 の連携に注目して』 座長:山田 真紀子、高橋 有我 演者:榎本 史子、浅野 美佐、 小原 由里、日塔 裕子、 北見 奈葉子、池下 未来	10:30～10:45 TIPS④ せん妄 木野 美和子 10:50～11:05 TIPS⑤ 栄養 長橋 拓 11:10～12:00 教育セミナー 『骨転移がん患者ボード・多職種 連携の現場から学ぶ』 座長:山口 重樹、坂井 さゆり 演者:佐藤 信吾、松井 美佐保		
12:00	12:15～13:15 ランチョンセミナー① 座長:田中 俊行 演者:三浦 智史 共催:塩野義製薬株式会社	12:15～13:15 ランチョンセミナー② 座長:塩野 昭彦 演者:大山 裕亮 共催:テルモ株式会社	12:15～13:15 ランチョンセミナー③ 座長:長岡 広香 演者:結束 貴臣 共催:ミヤリサン製薬株式会社		
13:00				13:25～14:10 ポスター発表 一人7分(発表5分、質疑2分)	
14:00	14:15～14:40 Zuttoiruミニコンサート	14:15～14:40 ミニコンサート サテライト中継			
15:00		14:45～15:35 特別講演② サテライト中継	14:45～15:35 特別講演② 『共に生きること』～チームミ サの寄り添い(チカラ)～』 座長:反町 利恵 演者:井上 有里子	ポスター撤去	ポスター撤去
16:00	15:40～16:30 スイーツセミナー 座長:徳原 真 演者:前澤 美代子、堀口 葉子 共催:日本支持・緩和医療鍼灸推 進協議会 セイリン株式会社		16:00～16:45 事例検討① 『認知症患者の自己決定を支える』 座長:廣野 正法 演者:藤原 麻由礼、石井 啓子 コメンテーター:小川 朝生		
17:00	16:40～17:40 座談会 『緩和ケア病棟24時! リアルな 現実、苦労話を教えて』 進行役:押本 直子、小林 剛 演者:坂下 美彦、砂河 由理子、 本間 英之、杉田 亜由美	16:35～17:45 シンポジウム② 『AYA世代がん患者への支援を考 えよう』 座長:間宮 敬子、清原 文 演者:齊藤 樹、儀賀 理咲、 南澤 晴海、増田 菜穂子、 新井 薫	16:55～17:40 事例検討② 『経済的困窮の背景にある“生きる意味”の 喪失を抱えたがん患者への支援を考える』 座長:藤平 和吉 演者:小池 由美 コメンテーター:原 敬		
18:00		17:45～18:00 閉会式 副大会長挨拶、次年度挨拶			

共催セミナー

12:15～13:15 第1会場 ランチョンセミナー①

座長：田中 俊行（高崎総合医療センター 疼痛緩和内科）

オピオイドの適正使用と疼痛緩和の地域連携を考える

三浦 智史（国立がん研究センター東病院 緩和医療科）

共催：塩野義製薬株式会社

12:15～13:15 第2会場 ランチョンセミナー②

座長：塩野 昭彦（公立富岡総合病院 泌尿器科）

腎不全患者の緩和医療

—保存的腎臓療法と緩和腹膜透析の実際—

大山 裕亮（公立富岡総合病院 泌尿器科）

共催：テルモ株式会社

12:15～13:15 第3会場 ランチョンセミナー③

座長：長岡 広香（東京都立駒込病院 緩和ケア科）

緩和ケア患者の便秘をどう診る、どう治す？

—病態に基づく排便管理と腸内細菌叢—

結束 貴臣（国際医療福祉大学成田病院 緩和医療科）

共催：ミヤリサン製薬株式会社

15:40～16:30 第1会場 スイーツセミナー

座長：徳原 真（東海大学医学部 緩和医療学）

患者さんの安らぎを支える、ほっとひと息つけるケアを求めて

—看護と鍼灸ができるやさしいサポート—

前澤 美代子（山梨県立大学 看護学部）

化学療法誘発性末梢神経障害に対する鍼灸治療とセルフケア

堀口 葉子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科、仁居治療院）

共催：日本支持・緩和医療鍼灸推進協議会

セイリン株式会社

日本緩和医療学会第8回関東・甲信越支部学術大会

プログラム

第1会場

09:00～09:15 オープニング四重奏

出演：群馬シティフィルハーモニーオーケストラ

09:15～09:25 開会式

大会長：田中 俊行（高崎総合医療センター 疼痛緩和内科）

09:30～10:30 特別講演①

座長：田中 俊行（高崎総合医療センター 疼痛緩和内科）

SL-1 群馬県の緩和ケアはどのように興ってきたのか、その歴史と今後の展望について

斎藤 龍生（渋川医療センター）

10:40～12:00 シンポジウム①

「教えて！あなたの街の緩和ケア～うちは〇〇がない！それぞれの工夫を教えて」

座長：間島 竹彦（渋川医療センター 精神腫瘍科）

笹本 肇（原町赤十字病院 緩和ケア科）

SY1-1 東京都大田区における地域緩和ケア

—都市部だからこそその課題と大学病院の役割—

中村 陽一（東邦大学医学部 臨床腫瘍学講座 緩和医療学分野）

SY1-2 うちにはがんの治療機能がない

—つなぐことで支える緩和ケア—

小木曾 綾子（愛和病院）

SY1-3 ～ “じもとの情熱”と共に成長する勇気が地域を救う!?～

専門的緩和ケアアウトリーチにおける社会実証のご紹介

田上 恵太（悠翔会くらしケアクリニック練馬/東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野）

SY1-4 在宅緩和ケアでの「ない」を考える

森田 廣樹（森田クリニック）

12:15～13:15 ランチョンセミナー①

座長：田中 俊行（高崎総合医療センター 疼痛緩和内科）

オピオイドの適正使用と疼痛緩和の地域連携を考える

三浦 智史（国立がん研究センター東病院 緩和医療科）

共催：塩野義製薬株式会社

14:15～14:40 ミニコンサート

出演：Zuttoiru

15:40～16:30 スイーツセミナー

座長：徳原 真（東海大学医学部 緩和医療学）

患者さんの安らぎを支える、ほっとひと息つけるケアを求めて

—看護と鍼灸ができるやさしいサポート—

前澤 美代子（山梨県立大学 看護学部）

化学療法誘発性末梢神経障害に対する鍼灸治療とセルフケア

堀口 葉子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科、仁居治療院）

共催：日本支持・緩和医療鍼灸推進協議会

セイリン株式会社

16:40～17:40 座談会

「教えて！あなたの街の緩和ケア～緩和ケア病棟 24 時！リアルな現実、苦労話を教えて～」

進行役：押本 直子（伊勢崎市民病院 緩和ケア内科）

小林 剛（渋川医療センター 統括診療部）

RT-1 がん専門病院における 2 つの緩和ケア病棟の運営

坂下 美彦（千葉県がんセンター 緩和医療科）

RT-2 緩和ケア病棟の再開 外科医・在宅医の視点から

砂河 由理子（とちぎメディカルセンターとちのき 緩和ケア内科）

RT-3 緩和ケア医が最期まで看取る」を手放した夜

—医療者減少と、看取りを病院全体で分かち合う

本間 英之（新潟県立がんセンター新潟病院 緩和ケア内科）

RT-4 患者の人生・価値観・意思を尊重し、その人らしい時間を支えるために

杉田 亜由美（山梨県立中央病院 緩和ケア病棟）

第2会場

10:40～12:00 パネルディスカッション

「教えて！あなたの街の緩和ケア～送る側と受ける側、病院と施設の連携に注目して」

座長：山田 真紀子（群馬大学大学院医学系研究科 麻酔神経科学）

高橋 有我（二之沢病院）

PD-1 独居終末期がん患者の在宅療養を支える地域連携の工夫

—看護小規模多機能型居宅介護併設事業所との連携を通して—

榎本 史子（新百合ヶ丘総合病院 看護部）

PD-2 独居終末期がん患者の在宅療養を支える訪問看護

～総合病院地域連携室との連携を通して～

浅野 美佐（セントケア神奈川株式会社 セントケア訪問看護ステーションあさお）

PD-3 急性期・慢性期・緩和ケアの医療を担う病院と藤沢市の取り組み

—藤沢市の緩和ケア病棟を有する病院のMSWの立場から

小原 由里（藤沢湘南台病院 患者総合支援センター）

PD-4 地域医療と病院をつなぐ藤沢市の取り組み

—在宅療養を支えるがん看護専門看護師の立場から

日塔 裕子（合同会社 柁の木 がん看護専門看護師）

PD-5 その人らしい最期をつなぐ～終末期患者の施設入所支援と連携～

北見 奈菜子（群馬県立がんセンター がん相談支援センター）

PD-6 「人生のバトン」を地域でつなぐ

—終末期利用者の意向を支える入居前連携の課題—

池下 未来（ケアホームこむぎ 連携室）

12:15～13:15 ランチョンセミナー②

座長：塩野 昭彦（公立富岡総合病院 泌尿器科）

腎不全患者の緩和医療

—保存的腎臓療法と緩和腹膜透析の実際—

大山 裕亮（公立富岡総合病院 泌尿器科）

共催：テルモ株式会社

16:35～17:45 シンポジウム②

「教えて！あなたの街の緩和ケア～AYA 世代がん患者への支援を考えよう」

座長：間宮 敬子（信州大学医学部附属病院 信州がんセンター 緩和部門）

清原 文（高崎総合医療センター 看護部長室）

SY2-1 明日を見つめる瞳が輝くように

～“Your School”という学習支援のあり方～

儀賀 理暁（埼玉医科大学総合医療センター 緩和医療科・呼吸器外科）

齊藤 樹（慶應義塾大学 薬学部薬学科）

SY2-2 AYA 世代がん患者に対する当院の支援と今後の課題

南澤 晴海（長野赤十字病院 がんサポートセンター）

SY2-3 神奈川県における AYA 世代支援：大学病院の使命と役割

～がん看護専門看護師の立場から～

増田 菜穂子（横浜市立大学附属病院 看護部）

SY2-4 群馬県若年がん患者在宅療養支援事業に関わるケアマネジャー・サービス事業所等研修事業について

新井 薫（合同会社ホスピスケア 生活相談室さくら）

17:45～18:00 閉会式

副大会長挨拶：間島 竹彦（渋川医療センター 精神腫瘍科）

次年度大会長挨拶：徳原 真（東海大学医学部 緩和医療学）

第3会場

09:30～09:45 TIPS①

「どの現場でも使える緩和ケア TIPS～口渇を和らげる！口腔ケアのヒント」

座長：吉田 久美子（高崎健康福祉大学大学院保健医療学研究科）

緩和ケアチームが支える口腔ケアの実践

野村 亜矢（獨協医科大学病院 血液腫瘍内科 看護部）

09:50～10:05 TIPS②

「どの現場でも使える緩和ケア TIPS～苦痛を減らす！褥瘡ケアの工夫」

座長：吉田 久美子（高崎健康福祉大学大学院保健医療学研究科）

苦痛を減らす！終末期における褥瘡ケア

岡部 美保（在宅創傷スキンケアステーション）

10:10～10:25 TIPS③

「どの現場でも使える緩和ケア TIPS～快適さを守る！浮腫の様々なケア」

座長：吉田 久美子（高崎健康福祉大学大学院保健医療学研究科）

明日から役立つ進行・終末期の浮腫のケア

中辻 香邦子（筑波メディカルセンター病院 看護部）

10:30～10:45 TIPS④

「どの現場でも使える緩和ケア TIPS～悪化させない！安心安全を守るせん妄ケア」

座長：森下 亜希子（桐生厚生総合病院 乳腺外科）

どの現場でもできるせん妄ケア

—悪化させないための小さな工夫—

木野 美和子（筑波メディカルセンター 看護部）

10:50～11:05 TIPS⑤

「どの現場でも使える緩和ケア TIPS～食べられない、食べさせたい！その間でできる栄養ケア」

座長：森下 亜希子（桐生厚生総合病院 乳腺外科）

「好きなものを何でも食べてください」と言えますか？

長橋 拓（新潟県立精神医療センター 栄養課）

11:10～12:00 教育セミナー

「教えて！あなたの街の緩和ケア～骨転移がんサード・多職種連携の現場から学ぶ」

座長：山口 重樹（獨協医科大学医学部 麻酔科学講座）

坂井 さゆり（新潟大学大学院 歯学総合研究科）

E-1 骨転移がんサードを開催してみよう！

～100回開催した経験から伝える開催のTips～

佐藤 信吾（東京科学大学病院 がん先端治療部・緩和ケア科・整形外科）

E-2 骨転移ケアの多職種協働、今こそ活かそう看護のチカラ

松井 美佐保（東京科学大学病院 緩和ケアチーム）

12:15～13:15 ランチョンセミナー③

座長：長岡 広香（東京都立駒込病院 緩和ケア科）

緩和ケア患者の便秘をどう診る、どう治す？

—病態に基づく排便管理と腸内細菌叢—

結束 貴臣（国際医療福祉大学成田病院 緩和医療科）

共催：ミヤリサン製薬株式会社

14:45～15:35 特別講演②

座長：反町 利恵（Hugheart-ハグハート訪問看護ステーション）

SL-2 「共に生きること」

～チームミサの寄り添い（チカラ）～

井上 有里子

16:00～16:45 事例検討①

「認知症患者の自己決定を支える」

座長：廣野 正法（伊勢崎市民病院 緩和ケア内科）

CS1-1 本当の病名を知らずにがん治療を受けた認知症高齢者

藤原 麻由礼（山梨県立大学 認定看護師教育課程）

CS1-2 人生の最終段階における意思決定支援と家族ケア

～FAST7の妻を支える夫の葛藤と多職種チームの関わり～

石井 啓子（山梨県看護協会ますほ 訪問看護ステーション）

コメンテーター：小川 朝生（国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科）

座長：藤平 和吉（利根中央病院 精神神経科）

CS2 経済的困窮の背景にある“生きる意味”の喪失を抱えたがん患者への支援を考える

小池 由美（群馬県立がんセンター）

コメンテーター：原 敬（さいたま赤十字病院 緩和ケアセンター）

第4会場（ポスター会場）

13:25～14:10 P1「身体的痛み」

座長：関本 研一（渋川医療センター 麻酔科）

P1-1 療養型病院の緩和ケアを支える医療用麻薬管理の実態

—長期入院・高用量オピオイド使用例に着目して—

水口 智美（二之沢病院 薬局）

P1-2 骨転移を有する在宅がん患者に対しデノスマブを新規導入し疼痛緩和とオピオイド減量を認めた3症例

木村 憲幸（あい逗子クリニック）

P1-3 メサドン導入後にQTc延長を認めた進行胃がんの一例

荻原 知美（国際医療福祉大学市川総合病院 緩和ケア科）

P1-4 メサドン開始時の薬学的注意点と実際に介入した1例

栗原 麻奈美（桐生厚生総合病院 薬剤部）

P1-5 入院中オピオイド導入後に在宅医療開始、難症例の問題点を再検討することでオピオイド減量・中止が可能となった3例

石川 祐輔（医療法人社団 ひさゆい会 在宅ケアクリニック杉並南部）

P1-6 集学的治療で自宅療養を実現できた骨盤骨転移の1例

国田 涼加（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

13:25～14:10 P2「痛み以外の身体症状①」

座長：黒崎 亮（前橋赤十字病院 外科）

P2-1 初診時T4乳がん患者の心理的背景について～治療介入の必要性～

森下 亜希子（桐生厚生総合病院 乳腺外科）

P2-2 大腸癌難治性腹水に対し合計15回の腹水濾過濃縮再静注法CARTを行い治療から離脱した症例

平山 信男（熊谷総合病院 外科）

P2-3 在宅がん性イレウス管理における症状緩和の課題と展望

—3症例の経験から—

高橋 秀行（医療法人あい友会 あい駒形クリニック）

P2-4 進行がん患者の難治性悪心に対しブロナンセリン経皮吸収型製剤が有効だった 1 例

廣瀬 綾菜（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

P2-5 ポータブル超音波画像診断装置を用いた非侵襲的な便秘の評価

井上 智香（群馬大学医学部附属病院 緩和ケアセンター）

P2-6 乳がん術後上肢リンパ浮腫患者に対するリンパ浮腫ケア外来の効果

ーリンパ浮腫セラピスト看護師による複合的治療と多職種連携支援が QOL に与える影響ー

山田 はるえ（独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター 看護部）

13:25～14:10 P3「痛み以外の身体症状②・その他」

座長：高野 峻一（公立藤岡総合病院 診療部 呼吸器内科）

P3-1 リズムコントロール困難な発作性心房細動に伴う呼吸困難にアルプラゾラムの内服が有効であった 1 症例

吉田 倫将（信州大学医学部附属病院 麻酔科蘇生科）

P3-2 脳幹腫瘍に伴う不安および呼吸困難に対して、トラゾドンが症状改善に寄与したと考えられた一症例

山口 順嗣（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）

P3-3 終末期膀胱癌患者に生じた小腸膀胱瘻による高クロール性代謝性アシドーシスを主因とする反復する意識障害の 1 例

森山 悠（千葉県がんセンター 緩和医療科）

P3-4 外来化学療法を受ける固形がん患者に対する G8 導入の有効性と課題
～看護師・薬剤師連携に着目して～

中林 淳子（渋川医療センター 看護部）

P3-5 頭頸部がん治療後の瘢痕拘縮による筋筋膜性疼痛と不安に対する鍼灸介入

高橋 明香（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

P3-6 高次医療機関から緩和医療目的に紹介された終末期癌に対して、抗がん薬物療法を施行した 2 例

戸塚 統（医療法人樹心会 角田病院 外科）

13:25～14:10 P4「その他の痛み」

座長：三枝 里江（群馬大学医学部附属病院 麻酔・集中治療科）

P4-1 悪性リンパ腫の移植後に多発筋肉内転移との鑑別を要しステロイド全身投与が著効した GVHD 筋炎の一例

小竹 理奈（国立がん研究センター中央病院緩和医療科）

P4-2 言語的訴えが困難な神経膠腫患者の疼痛アセスメントにおけるがん専門病院の看護師の体験の構造化に向けた質的研究

小林 重紀（新潟大学大学院医歯保健学研究科健康科学専攻看護学プログラム）

P4-3 治療の意味喪失（デモラリゼーション）を背景に希死念慮を呈した高齢がん患者への全人的支援

小泉 はるか（日本医科大学千葉北総病院 看護部）

P4-4 1日で完結する緩和放射線治療（one-day RT: one-day radiotherapy）のパリエーション

高橋 聡（自治医科大学 放射線治療科）

P4-5 緩和ケア病棟における抗てんかん薬の使用について～膠芽腫・悪性神経膠腫7例の報告～

二宮 智子（がん・感染症センター都立駒込病院 緩和ケア科）

P4-6 小細胞がんの傍腫瘍症候群による末梢神経障害に対して、十味剉散に近づけた合方（大防風湯＋桂枝茯苓丸）が有効であった一症例

渡辺 邦太郎（杏林大学医学部麻酔科学教室）

13:25～14:10 P5「その他の痛みのケア」

座長：星野 隼矢（渋川医療センター 緩和ケア科）

P5-1 多職種による外泊支援により、せん妄の改善を認めた緩和ケア病棟がん患者の一例

岩井 由美子（独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター 看護部）

P5-2 胃癌術後に盲腸癌と診断され心理的ストレス状況にある高齢がん患者の意思決定支援ーストレス・コーピング理論を用いて適応過程と看護支援を考察するー

荒川 浩（桐生厚生総合病院地域医療連携室）

P5-3 生成AIを活用した「人生絵本」によるスピリチュアルケアを試みた1例

菌部 光汰（医療法人 あい友会 あい太田クリニック）

P5-4 気管切開による失声と孤独感を抱えるがん患者への看護支援

篠田 静代（群馬大学医学部附属病院 緩和ケアセンター）

P5-5 がん終末期患者の急激な状態の変化に動揺する、家族への対応の経験

鈴木 夏芳（真木病院 看護部）

P5-6 がんサロン「ほっとさろん・たかさき」の評価と課題

長島 春香（独立行政法人 国立病院機構 高崎総合医療センター 看護部）

13:25～14:10 P6「在宅緩和ケア」

座長：中曽根 拓也（おだやか在宅クリニック）

P6-1 主治医として診断から治療、在宅緩和ケアから看取りまで実践できたがん患者の1例

丸山 雅史（今井クリニック丸山内科）

P6-2 携帯型ポンプを用いたミタゾラム注による訪問看護下での鎮静法

笹澤 桂子（真木病院 訪問看護ステーション）

P6-3 丸山ワクチンが著効したと考えられた癌末期の在宅診療患者の1例

荻野 隆史（本庄早稲田クリニック）

P6-4 『最期まで家で』を支える

— 定期巡回と訪問看護の連携による在宅看取り支援の取り組み —

山口 ゆか子（Hugheart-ハグハート訪問看護ステーション）

P6-5 その人らしい最期を迎えるために

～ 在宅で緩和ケアを望んだ単身世帯のがん末期利用者とのかかわり ～

松沢 育実（社会医療法人 丸山会 御所苑訪問看護ステーション）

P6-6 訪問診療クリニックにおける緩和ケアチームの活動報告

切れ目のない情報共有と ICT 活用による、クリニック全体の在宅緩和ケアの実践

矢野 靖江（医療法人あい友会 あい駒形クリニック）

13:25～14:10 P7「在宅緩和ケア・退院支援」

座長：前野 有理（あい太田クリニック）

P7-1 多職種連携により在宅看取りを実現した独居高齢者の一例

大崎 佳代子（あい駒形クリニック）

P7-2 骨転移を呈するがん患者の自宅退院における FIM の予測妥当性の検討

藤井 洋有（公立藤岡総合病院リハビリテーション室）

P7-3 終末期肺がん患者の希望と不安に寄り添った退院支援の一事例

三谷野 聡子（地方独立行政法人 大月市立中央病院）

P7-4 過疎地域に居住する終末期がん患者の在宅移行支援

五十嵐 千代子（桐生厚生総合病院 看護部）

P7-5 緩和ケア病棟で看取りを希望していた患者に期間限定の一時退院を提案した一例

山上 あゆむ（東京品川病院 緩和ケア科）

P7-6 当院緩和ケア病棟を生存退院した患者における介護保険サービス利用の実際

押本 直子（伊勢崎市民病院 緩和ケア内科）

13:25～14:10 P8「在宅緩和ケア・地域連携」

座長：加藤 裕美（原町赤十字病院 看護部）

P8-1 地域のリハビリテーション職種からみた、がん終末期の多職種連携と教育ニーズ

京田 亜由美（群馬大学大学院保健学研究科看護学）

P8-2 がん難民を生まない「北信がん診療・緩和ケアネットワーク」の活動

平方 眞（医療法人愛和会 愛和病院）

P8-3 緩和医療におけるミタゾラムを用いた鎮静法：入院と在宅の比較検討

尾形 敏郎（真木病院 診療部 外科）

P8-4 終末期がん患者のテーマパーク外出支援の一例

—褥瘡・疼痛管理を要する患者に対する多職種連携—

小野 かおり（みらい訪問看護リハビリステーション）

P8-5 訪問診療を契機に標準治療へ繋ぎ、長期生存が得られた進行乳癌の1例

芳賀 紀裕（医療法人あい友会 あい太田クリニック）

P8-6 地域住民とともに学ぶ「トータルペイン」

—地域イベントを活用した在宅緩和ケア普及の取り組み—

高山 水樹（医療法人賛永会 さつきホームクリニック 地域連携共創部）

13:25～14:10 P9「緩和ケア病棟・終末期ケア」

座長：平山 功（群馬県済生会前橋病院 緩和ケア内科）

P9-1 当院療養病棟におけるデスカンファレンス導入前後の看護師の感情の変化の調査から見た今後の課題

根岸 葵（医療法人徳洲会 皆野病院 5階医療療養病棟）

P9-2 終末期における本人らしさを尊重した褥瘡予防ケアの実践

金子 愛美（筑波メディカルセンター病院 PCU 病棟）

P9-3 頭頸部癌の進行によりコミュニケーション困難となった患者へのチームアプローチ

松田 繰実（公益財団法人ライフ・エクステンション研究所附属 永寿総合病院）

P9-4 ホスピスにおける介護士の専門性

～その人らしい暮らしを支えた一事例～

本田 雅敦（ホスピス和が家）

P9-5 グリーフケアスペース川崎活動報告―地域の中で行われるグリーフケアの可能性―

福島 沙紀（一般社団法人プラスケア）

P9-6 当院における終末期乳がん患者の死亡場所の検討

俵矢 香苗（横浜栄共済病院 乳腺外科）

13:25～14:10 P10「緩和ケア・その他」

座長：武井 智幸（公立藤岡総合病院 泌尿器科）

P10-1 幼少期発症の巨大悪性末梢神経鞘腫における AYA 世代患者の終末期心理反応

～発達心理学的アプローチによるケアの再考～

菅原 健志郎（群馬大学医学部附属病院 麻酔・集中治療科）

P10-2 がん確定診断時におけるがん看護外来介入の現状と課題

～病理結果からつなぐ患者・家族支援とがん患者指導管理料算定への取り組み～

奥澤 直美（独立行政法人国立病院機構渋川医療センター 看護部）

P10-3 在宅医療での終末期プリオン病患者の緩和ケア、工夫を重ね生存期間を延長できた4症例

白濱 淳（医療法人社団 ひさゆい会 在宅ケアクリニック杉並南部）

P10-4 2026年診療報酬改定を見据えた一般病棟における末期腎不全患者の入院診療の実態調査

古島 雅子（東京ほくと医療生活協同組合王子生協病院）

P10-5 緩和ケアチーム活動の工夫と依頼動向の変化

小屋 紘子（前橋赤十字病院緩和支援医療科）

P10-6 常勤精神科医の着任を契機とした緩和ケアチーム再始動後 2 年間の活動実績と自施設評価に基づく今後の展望

渡邊 健太（利根中央病院 総合診療科）

13:25～14:10 P11「倫理的問題・教育」

座長：角田 明美（群馬大学医学部附属病院 緩和ケアセンター）

P11-1 当院における臨床倫理コンサルテーションチームの発足と活動の報告

廣野 正法（伊勢崎市民病院 緩和ケア内科）

P11-2 難治性疼痛患者の自宅療養決定に向けた倫理的ジレンマの解決

～緩和ケアチームによる病棟カンファレンスへの介入効果～

宮澤 純江（群馬大学医学部附属病院 緩和ケアセンター）

P11-3 緩和ケア病棟に勤務する看護師のやりがい感

～緩和ケア病棟開設 1 年が経過して～

中島 真紀（川口市立医療センター PCU 病棟）

P11-4 麻薬関連インシデントレポートのテキストマイニングによる発生要因の分析

島本 一志（昭和医科大学病院 薬剤部）

P11-5 サービス付き高齢者向け住宅における「第 2 の自宅」としての看取りを支える実践報告

—緩和ケア認定看護師によるスタッフ教育指導—

是枝 佐由子（アンジェス宇都宮御幸本町併設 訪問看護ステーションルーチェ宇都宮御幸本町）

P11-6 当院リハビリテーション科による緩和ケアの認識調査

—がんリハビリテーション研修受講の影響の検討—

初川 蓮（医療法人 真木会 真木病院 リハビリテーション科）

13:25～14:10 P12「啓発・ACP」

座長：今井 洋子（前橋赤十字病院 緩和ケア支援室）

P12-1 中野区における在宅診療所発の多層的 ACP 啓発の実践報告

石井 洋介（医療法人社団おうちの診療所 おうちの診療所 中野）

P12-2 リビング・ウィルに関する市民の認識と意向

—「リビング・ウィルセミナー」参加者アンケートの分析—

石井 あかね（独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター 疼痛緩和内科）

P12-3 外国人の肺癌患者の緩和ケアにおける意思決定支援と死後対応の課題

御子柴 颯季（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

P12-4 悪性胸膜中皮腫終末期における多層的な ACP

—家族の予後拒絶と患者の「生き切る」意思を繋ぐ看護実践の省察—

中村 康江（日本鋼管病院 看護部）

P12-5 アドバンス・ケア・プランニングに関する A 病院の意識調査

桑原 小百合（公立館林厚生病院 東 4 階病棟）

P12-6 「こんなに悪いとは思っていなかった」と話す、人生の最終段階に向かう壮年期がん終末期患者の揺れる思い

～患者意向確認（ACP）シートを用いての意思決定過程の支援～

村澤 香代（都留市立病院）

13:25～14:10 P13「他職種協働・チーム医療」

座長：生方 貴子（高崎総合医療センター 看護部）

P13-1 50 歳台肺がん患者と家族の思いに寄り添った多職種連携の一事例

～外来から入院まで切れ目のない関わりを通して～

宮崎 好美（佐野厚生総合病院 緩和ケアチーム）

P13-2 在宅緩和ケアにおけるグリーフケア教育を通じた地域多職種連携の試み

平井 ゆり（ひなた在宅クリニック山王）

P13-3 遺族会ケアにおける宗教者による支援実践—「弔い直し」の一事例から—

古溪 光大（雲門寺）

P13-4 山梨県立中央病院での緩和ケアチーム研修会の現況

阿部 文明（山梨県立中央病院 緩和ケア科）

**P13-5 在宅後方支援機能に特化した緩和ケア病棟に勤務する看護師の共感疲労と共感満足の実態
—ProQOL-JN と半構造化インタビューを用いた混合研究—**

小出 光子（千葉県がんセンター 医療の質・安全管理部）

P13-6 癌性腹膜炎・腸閉塞を伴う大腸癌患者の在宅緩和ケアにおける訪問薬剤師の役割と多職種連携

田口 典子（日本調剤 西新井薬局）